

「東京タワー通り」誕生!

にぎわいを点から面へ

ビルの間におなじみの赤い鉄骨の姿を見つけ、ほっとする人も多いのではないのでしょうか。東京のシンボルとして、333mの高さからいつもわたしたちを見守ってくれている東京タワーも、今年で竣工から56年目を迎えました。

そしてこのたび、東京タワーを訪れるときに通る、東京プリンスホテル裏から飯倉交差点までの坂道が、「東京タワー通り」と名付けられました。これは東京タワーを運営管理する日本電波塔株式会社の開業55周年プロジェクトの事業の一つでしたが、地域の方からの協力も得られ正式な通り名となりました。プロジェクトのメンバーである日本電波塔株式会社の澤田健さん、小椋信也さんに、通り名とこの地域についてお話を伺いました。

「東京タワーの建設は、日本一の電波塔を支えるのに十分な面積と強固な地盤などを条件に、現在の場所が選ばれました。このエリアはオフィスが多いため、活発な地域コミュニケーションは最近まであまり交わされていませんでした。そこで開業55周年プロジェクトの中で、地域の活性化と利便性の向上のため『東京タワー通り』の名称を地元の方々にご提案し、受け入れていただくことができました」と澤田さん。「通り名の表示があれば、最寄り駅から便利な目印になりますし、近年増えている外国の方々の案内にも役立つと思います。東京タワーという一つの〈点〉ではなく、エリア全体



東京タワー通り

が〈面〉として盛り上がるきっかけになればうれしいですね」。

また、広報の立場からプロジェクトに参加された小椋さんは、「道路としての名称があった方が、地域企業としてもご案内がしやすくなるという声もいただきました。通り名がつくことにより周辺施設にもより関心が高まり、地域活性化につながると考えています」。

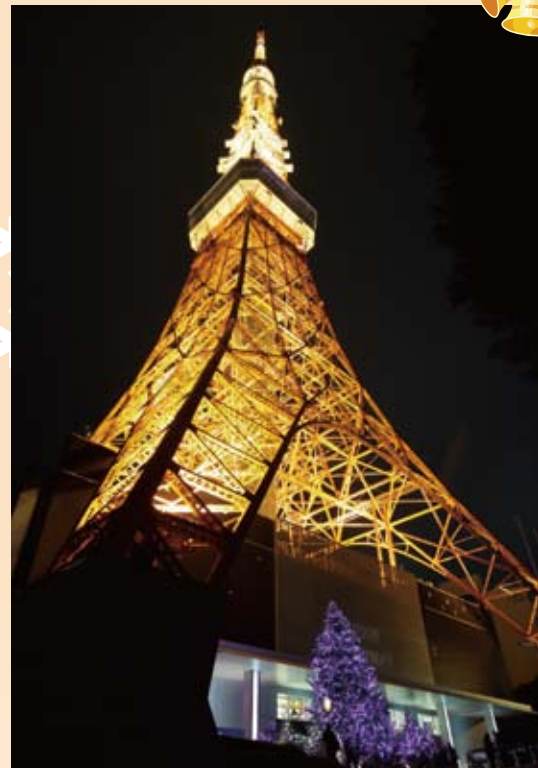
近年、都内ではランドマークの建設とともに周辺の再開発も盛んです。それらの観光スポットをつなぐ交通手段の見直しがはじまり、東京観光そのものも面として広がりつつあります。澤田さんは、「展望台からは次の東京オリンピックの開催会場や、東京中の観光スポットを一望することができます。浜松町は海外からのお客様の玄関口ですので、ぜひ芝周辺にご滞在いただき、展望台から東京を見渡して、東京タワーを拠点とした観光プランを立てていただきたいと考えています」と、開業60周年とオリンピックという2大イベントを控え、今の思いを語ってくれました。

今年のクリスマスは
映画「くるみ割り人形」と
コラボレーション！

さて、12月の東京タワーといえばクリスマス・イルミネーション。今年は「東京タワーウィンターファンタジー」と銘打ち、映画「くるみ割り人形」の世界観を表現したイルミネーションが、大展望台(2階)と正面玄関前を来年2月まで飾ります。映画の中の音楽に合わせて変化するクリスマスツリー・ライティングショーにも注目です。タワー本体のライトアップも、クリスマスの時期は特別なライティングが予定されているそうですよ。

東京タワーへ行きましょう!

地上のフットタウンでは、最近急増してい



今年のクリスマス・イルミネーションも楽しみです



東京タワーウィンターファンタジー

る芝公園ランナーのために、ランナーズサロン「LOVESPO TOKYO(ラブスポ東京)」が注目を集めています。また大展望台で夜景を眺めながらライブ演奏を楽しめるレギュラーイベントも魅力的です(水・木曜日のみ)。見上げると、いつも変わらぬ表情でそこにいてくれる東京タワーは、常に新しい楽しさにも溢れています。

身近すぎて眺めるだけになってしまいがちの東京タワーですが、たまには展望台から足元の景色を眺め、明日の芝地区のにぎわいへと思いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。



小椋信也さん(左)、澤田健さん(右)

[文 ■ 森田友子]

- 取材協力：日本電波塔株式会社 観光本部 総合メディア部
課長 澤田健さん、広報・マルチメディア担当 小椋信也さん
- ホームページ <http://www.tokyotower.co.jp/>

7 ページでは掲載記事の所在地を地図上でご案内しています！

東京都市計画事業環状第二号線 新橋・虎ノ門地区 道路／再開発事業

森ビル都市企画株式会社
代表取締役社長

山本和彦さん

聞き書き

平成26年(2014)3月に東京都事業の環状第二号線 汐留―虎ノ門間が開通し、6月には虎ノ門ヒルズが完成しました。環2道路整備及び再開発事業の事業協力者であり、虎ノ門街区の特定建築者となった森ビル株式会社で、この事業に長い間関わられた同社特別顧問の山本和彦さんに、環状二号線にまつわるお話を伺いました。

「公共道路建設を中心とした環状二号線再開発事業ですが、国土交通省、東京都都市整備局、東京都建設局、港区役所、近隣町会と住民、区域内に含まれた諸権利者、事業協力者、そして特定建築者、建設業者など、おのおのの役割が円滑に機能し、その協力のもとに完成しました」と、事業を回想する山本さん。

新橋・虎ノ門・汐留の学術研究

山本さんと環状第二号線新橋・虎ノ門地区道路／再開発事業の関わりは、昭和58年(1983)にさかのぼります。

横浜市立大学商学部の教授であった森ビル(株)創始者の森泰吉郎(1904-1993)は、昭和56年(1981)に都市再開発と市街地の環境整備に関する総合的研究を目的に、「財団法人森記念財団」を設立しました。その財団において、有識者、学者



により「東京中心部における民間活力による再開発の研究・その1 環2―汐留―内港部都市軸構想」というテーマで学術的研究を行い、山本さんはその報告書のグループ主査を務め、より深く地域を理解できたそうです。報告書では環状2号線の使命、可能性として防災都市軸や業務地域としながらも、それと調和した住宅地、湾岸部に隣接した都心整備など、単に新橋・虎ノ門地区だけではなく周辺部の汐留を含めた研究がなされ、これが昭和62年(1987)の研究「その4 新橋グリーンプロムナードの構想(案)」につながりました。関東大震災の後、震災復興図が作られた際、虎ノ門地区は各敷地が小規模で、地域内の道路の面積が全体の32%という高い水準を示していました。そのことが敷地の共同化を困難にし、土地の高度利用の難さと容積率の低利用、少ない緑地と空地など、この地域特有の問題を生じさせていました。この研究はそれら課題への解決を示唆し、新橋・虎ノ門を活気ある街、緑と光にあふれる街、人間味あふれる街づくりにするための学術的研究でした。

その一方で、森ビル(株)は、創業以来ナンバーの付く事務所ビルを建設し、その後昭和61年(1986)にはアークヒルズ、平成13年(2001)愛宕グリーンヒルズ、平成15年(2003)六本木ヒルズなどの大規模再開発へとビジネスを展開しています。

環2事業協力者としての役割 (官・地元・企業一体での推進)

森ビル(株)は平成14年(2002)に、東京都施行の再開発で初めて採用された事業協力者に公募指名され、環2事業の初期段階から計画に参画することとなります。施行者である東京都と区域内の人々をつなぐ事業協力者として、「堀割部分に蓋かけした広幅員歩道を有する道路計画案」や「建物棟数



集約により虎ノ門街区の広場面積を拡充する計画案」への提言、区域内の人々の生活再建を実現するための提案などを行い、その役割を果たします。官と地元そして民間企業による三位一体での事業推進。その中で、前述の学術研究とビジネスの展開によって得られた知見、ノウハウは、新橋・虎ノ門の環状2号線道路再開発事業の公共性と、道路区域内に組み込まれた人々の経済生活再建の両立を理解し、実現させるために大変役立ったそうです。

山本さんは『「新虎通り」という愛称を持った道路の周辺は、道路率の高かった時代に創ってきた新橋・虎ノ門の路地裏文化と同時に、感性に訴える新しい芸術的要素を持った総合的再開発が続けられ、その中で虎ノ門ヒルズは地域と共に新しい理念を創り続けてほしいと考えています」と、まちづくりの将来に思いを巡らせています。

【文 ■ 森明】

- 取材協力：森ビル株式会社 特別顧問
森ビル都市企画株式会社 代表取締役社長 山本和彦さん
- 参考資料：東京都再開発事務所編 事業概要平成26年度版
東京都再開発事務所・東京都第一建設事務所編
環状第2号線新橋・虎ノ門地区再開発事業／道路事業2013
港区立港郷土資料館編 港区近代沿革図集新橋・愛宕・虎ノ門他
財団法人森記念財団 東京中心部における民間活力導入による再開発の研究
その1 環2―汐留―内港部都市軸構想
その4 新橋グリーンプロムナードの構想(案)

東京都市計画事業環状第二号線新橋・虎ノ門地区 道路／再開発事業の沿革



新虎通りと虎ノ門ヒルズ

昭和21年(1946)、東京都による戦後復興都市計画のひとつとして、環状二号線道路事業(延長9.2km、幅員100m)は計画決定されました。この事

業は、東京都が施行者となる「公共の目的」の事業で、環状2号線地上部と地下トンネル部の道路の整備、周辺区画街路等の整備、および施設建築物などの再開発事業です。しかし、昭和25年(1950)に道路幅員が40mに変更された際も計画は施行されず、平成14年に事業が決定されるまで、55年もの間、未着手のままでした。以降、平成12年(2000)に区域拡大、平成15年には1.5Kmに延伸、さらに晴海―汐留区間の計画変更などがあり、道路地上部は平成24年(2012)度に着工、翌年に愛称「新虎通り」が決まり、新橋―虎ノ門間トンネルは平成25年(2013)度に着工され、開通しました。現在は地上部の緑と歩道の整備が待たれています。

その一方で、平成13年の新橋・虎ノ門道路指定区域内の人口は約330人、世帯数約170、土地所有者、借地建物所有者、借家人などの関係者は942人いました。そして、同区域内は昭和56年以前は2階建て、以降が3階建てまでという建築制限があり、かつ固定資産税の軽減措置も十分ではな

く、経済的に有効活用できず、個人の生活再建が見通せない状況が続いていました。

平成元年(1989)に計画の実現に向けて、用地買収の費用節約、人口の流出防止、住民の残留促進のために立体道路制度(建築ビル内部地下階に道路設置)が創設され、平成14年には区域権利者の生活再建のために、民間企業の企画・運営能力を活用した事業協力者制度(公募)が、平成16年(2004)からは施設建築物の建設と残りの床(地権者以外の建物部分)を処分委託するための特定建築者制度(公募)が採用され、平成17年(2005)に工事が着手されました。平成19年(2007)丸紅(株)を特定建築者として、虎ノ門1丁目に住宅である「グランスweet虎ノ門」、平成23年(2011)(株)西松ビルサービスを特定建築者として、新橋4丁目に店舗、住宅、事務所などの「新橋プラザビル」、平成26年森ビル(株)を特定建築者として、虎ノ門1丁目に店舗、カンファレンス、事務所、住宅、ホテルなどの「虎ノ門ヒルズ」が完成しました。

江戸時代から続く粋と 未来へつなぐ心意気の酒屋 老舗リカーショップ「あたび小西」

愛宕神社前の通り沿い、ワインショップ「あたび小西」の店頭に設けられたテーブルと椅子。お客様が気軽に訪れ、ワインとチーズなどの簡単なおつまみを楽しむ、そんな欧州のバルをイメージして15年前に改装。酒屋の店頭でワインが飲めるスタイルは当時珍しく、ワイン好きの集まるサロンとして話題になりました。最近是这样のお店が増えましたが、「あたび小西」はその先駆けでした。

「江戸」から続く暖簾

会社のロゴマークの「〇(まる)」に「西」、その右上に「チ」の文字があります。これは江戸時代から伝わる小西の暖簾に由来するもの。

老舗酒屋「小西」が愛宕に本拠を据えたのは、明治16年(1883)のこと。当時、愛宕山は東京でもっとも眺望が良く、外国人専用のホテルがありました。文明開化で洋食文化が広まり始めた頃に、愛宕山の下でお店を開き、洋酒や



ワイン談義はつきない



小西功祐副社長(左)、小西恭子さん(中央)、小西悦郎社長(右)

ワインを扱ったのが「小西」です。

5代目の小西悦郎代表取締役社長と専務の恭子さんは、レストランやバー、ホテルにワインを卸すだけでなく、より多くの人に直接ワインの魅力を伝えたいと、店舗をワインショップに改装。ご子息の小西功祐取締役副社長は6代目。日本ソムリエ協会認定のシニアワインアドバイザーを取得し、ショップではワインを楽しむイベントや、初心者にも分かりやすいワインセミナーを開催しています。恭子さんも慶應義塾大学の会員制クラブでワインの講習を10年続けていらっしゃいます。ご家族で欧州のワイナリーを多数訪問し、日本にはまだ入っていないワインを厳選して輸入、自信を持ってお勧めできるワインを店頭に並べています。今年も日本初上陸のシャンパーニュが入荷しています。

愛宕のワインショップのスタイル

お店に飾られている高級ワインの空瓶は、すべて実際に店頭でお客さまが飲んだもので、ロマネコンティ、オーパス・ワン、ムートン・ロートシルト、ドンペリニヨンなど、名だたるワインボトルがずらりと並んでいます。「おいしい良いものを飲みたい」というニーズがあり、「小西に行けば良いワインが飲める」との口コミで人々が集まってきたのです。『「あたび小西」の品ぞろえはフランスワインが中心です。フランスワインはどうしても多少高価になりますが、ビジネスの場でのプレゼントや大切な方へのお歳暮などギフトで重宝され、贈ったら喜ばれた、小西に依頼したら間違いない、という言葉を大切にしています」と恭子さん。

「信頼」のショップ

最近インターネットでもワインが買える時代になり、店舗は減る傾向にあります。虎ノ門地区の開発や2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催で、愛宕のまちもどんどん変化しています。「これからワインショップがどのようになっていくか、いろいろ課題がある」と6代目功祐さん。「毎回テーマを決め、ワインを楽しく勉強するイベントを開催して3

年になります。フランスのブルゴーニュだけでも生産者はたくさんいますし、ぶどう品種や土地、畑など、テーマの切り口はつきません。ワインは嗜好品です。飲食店同様、お店の特徴は何か、何を売ろうとしているのかが分らないと、なかなかリピートして来てくれないと思います」と、厳しくも熱い思いを語ってくれました。

「継続」の力

3人とも「ワインの騎士(シュヴァリエ)」を叙任されています。5代目悦郎さんと恭子さんはフランスのブルゴーニュワイン、ボルドーワイン、シャンパーニュの騎士であり、6代目功祐さんはシャンパーニュの騎士。このシュヴァリエは、ワインの産地に貢献した人々に与えられる名誉ある称号です。その3人の目にかない選ばれたワインがそろい、シニアワインアドバイザーがいる信頼できるお店が「あたび小西」のスタイルと感じました。



「ワインの騎士(シュヴァリエ)」の証が並ぶ

「幼い頃はこの辺りにも商店街がありました。今はなくなりました。その土地に根付いた店があるということは、地域性につながると信じています。酒屋から業態を変えながらも、ビジネスを続けてきた「歴史」を大切にしています。どのようにまちが変わっても、自分はこの店を残さなくてはいけない、この仕事が嫌いということを超えて、次の世代につなげていきたいです」と6代目。力強い後継者の言葉に、愛宕のまちの息吹を感じました。

【文 ■ 早川由紀 取材 ■ 森明、早川由紀】

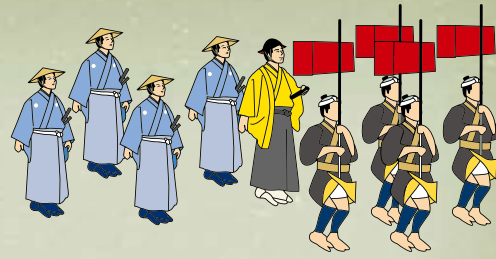
Information

あたび小西

愛宕1-6-8 TEL 03-3436-3555

●ホームページ <http://www.atagokonishi.com>

浮世絵に描かれた金杉橋と今



江戸時代後期の浮世絵師、歌川広重の作品「名所江戸百景」の中に、「金杉橋芝浦」があります(図1)。当時の金杉橋の様子がよくわかります。

金杉橋のにぎわい

慶長8年(1603)、江戸に幕府を開いた徳川家康は、街道整備に力を注ぎました。日本橋を起点とする「東海道・奥州街道・日光街道・中仙道・甲州街道」いわゆる五街道です。

とりわけ東海道は、幹線として重要な役割を担いました。西国大名などが参勤交代として、あるいは京阪地域に商品などを買い付けに行く商人や、伊勢の「お伊勢さん」、讃岐の「金毘羅さん」などの参詣の陸路として利用されました。これらの人々は、この金杉橋を渡りました。



金杉橋から古川の東側を見る

金杉橋の由来

文政2年(1819)に幕府が編纂した「御府内備考」では、金杉橋をこのように解説しています。「金杉橋、長十一間余、幅四間。又云、金杉橋は金杉町より赤羽川に架せる橋なり、昔は土橋なりしが延宝3年(1675)より板橋に改めらる」と。その後、金杉橋は明治5年(1872)、昭和4年(1929)にも架けかえられました。

浮世絵に描かれた金杉橋

橋の上にはたくさんのへんさんののぼりが並んでいます。これは、法華宗の「お会式」の様子で、10km程先にある「池上本門寺(現在の大田区池上)」に向かう行列です。絵の右上は江戸湾。ここを行き交う帆船が、帆にいっぱい風を受けて進んでいる風景です。

今の金杉橋

かつての東海道、現在の第一京浜国道と首都高速道路の交わる所が金杉橋です。主要道路だけに自動車の交通量も多く、試しに9月中旬のお昼前に1分間の通行量を測ってみました。品川



図1

方面から金杉橋を通過した自動車は70台。その内トラックが50台。また、田町方面に行く車両で金杉橋を渡ったのは63台。やはりトラックが多数を占めました。まさに物流、経済の基幹道路です。

金杉橋の周囲を眺める

橋の真ん中から辺りを見渡すと、東側には山手線などの電車が渡る鉄橋が見えます。また、橋の下を流れる古川の川面に目を落とすと、「屋形船」が係留されています。黄昏どきになると、大勢の人がこれらの船に乗って東京湾に向かうのでしょう。

江戸時代から今日まで、数え切れないほどの人々が、この橋を渡りました。橋の欄干にもたれ、目をつぶると、旅人の楽しそうな声が聞こえてくるような錯覚を覚えました。



首都高速道路の下が金杉橋。現在は第一京浜国道に

【文 ■ 清田和美】

●参考図書
「芝区誌」
「広重名所江戸百景」望月義也コレクション

鳥取県×岡山県 アンテナショップ とっとり・おかやま 新橋館がオープン

ここ数年だろうか、その土地に行かずとも都内で地域の名産品が購入できるアンテナショップという業態が定着した。表参道に新潟県、新宿の宮崎県、東京駅八重洲にも京都府、そして有楽町には一つのビルに北海道ほか10県以上のアンテナショップが入るなど、都内のあちこちで見かけるようになった。テレビや雑誌の特集などにもさかんに取り上げられているので、その名を知らない人はいないだろう。

一方で、アンテナショップという言葉が独り歩



煙のステーキ
「ジャンボ
マッシュルーム
の丸焼き」

きをして、各自治体が家賃の高いエリアに出店しては、想定の上り上げが見込めずに赤字事業となっていることも少なくないようだ。

そんな中、今年9月28日にオープンした「とっとり・おかやま新橋館」。岡山県としては初のアンテナショップ出店となる。その意気込みを、岡山県の「とっとり・おかやま新橋館」運営協議会事務局 中山尚美さんに聞いた。

「岡山県がアンテナショップを出店したのは、47都道府県中40番目。県のホームページでも『広報が下手でした』と書いていますが、全くPRができていませんでした。県内を見渡せばいい商品はたくさんあるのに自己満足で終わっている、そんな状況がありました」。岡山県の伊原木知事が掲げた「産業振興」を推進するにあたり、まずぶつかったのは物流の課題だった。「岡山の商品、特にお届けしたい旬の生鮮品は、大阪や遠くても名古屋まで届けることが限界でした。新橋

に拠点を持つことで、東京での販路を広げていきたいという思いがあり、今回出店にこぎつけました」。

知事の肝いりで出店が決まったアンテナショップは、国内最大級の敷地面積を誇り、サラリーマンのまち新橋駅の目の前だ。まず入ってみると、見たこともないような商品のプロモーションゾーンが目を引く。日替わりで商品を紹介しているという。「来るたびに新しい、初めて見るもの



ゆったりと
広いイベント
スペース

がある、そんなお店にしていきたいと思っています」。1階のショップスペースには、きびだんごをはじめ、大手饅頭、ままかりの酢漬、シガーフライなどの名産品が並ぶ。「鳥取県と一緒に出すことで、一年中常に何かしら旬のものを提供できるショップにできたと思います」。

桃とぶどうだけではない、みかんやハウスもののいちごも、これからの季節の楽しみだ。2階には飲食スペースがあり、岡山県の特産品であるジャンボマッシュルームの丸焼きが食べられる。直径なんと10cm。実際に食べてみると、ジューシーなマッシュルームに味がしっかりとしみ込み、粗削りのチーズとの相性も抜群で、目と舌の両方を楽しませてくれる一品であった。

2階で楽しめるのは料理だけではない。奥には40人ほどが入れるプロジェクター完備の催事スペースもある。「銀座にも近い新橋にあることや、ゆったりとしたスペースが持ったことで、地元のお祭りや文化祭とも違う、アンテナショップにしかないにぎわいが生まれています」。

満を持して40番目にオープンしたアンテナショップは、その出店を待ち望んだ岡山の県ぐるみの強い思いを原動力に、日々ここにしかない「にぎわい」を生み出している。

【文・写真 ■ 高井志保】

Information

とっとり・おかやま新橋館
新橋1-11-7 新橋センタープレイス1~2階
TEL 03-6280-6474
●ホームページ <http://www.torioka.com/>

「スキーは生涯スポーツ」 シニアの現役選手 生駒滋男さん

VOICE
芝人



東京オリンピック[昭和39年(1964)]の聖火ランナーに 選ばれた高校生の生駒青年

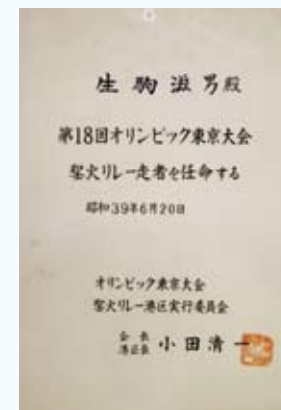
2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることになり、ひと際感慨深い思いをされているのが生駒滋男さん(66歳)。

50年前の東京オリンピックで港区代表の聖火ランナーとして、麻布十番から芝公園までの約3kmを、生駒さんと2人の青年が聖火を高々と掲げて走りました。

高校2年生の時、生駒さんはスキーのインターハイの東京都代表に選ばれ、その成績を買われスキー連盟から聖火ランナーに推薦されました。それ以外にも学業成績が優秀であり、品行方正であることも条件にない、見事に栄誉を授けられました。

6月に声がかかり、10月の本番に走るコースで2~3回練習を行ったのですが、「これは大変なことを引き受けた」と思いながら走ったそうです。

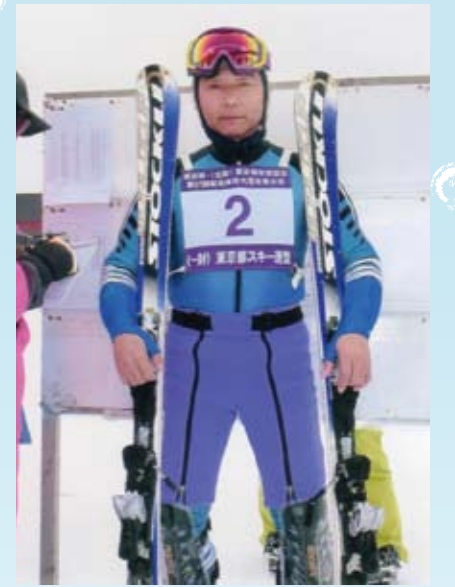
東京オリンピック聖火ランナーの任命証。多くの競技大会で優勝された表彰状と盾のほか、感謝状は数知れず



東京オリンピック開会式当日、芝公園の前を聖火を掲げて走る生駒さん

スキーの楽しさを伝え、 もっと普及させるのが使命

生駒さんの実家は、増上寺の大門のそばで料亭を営んでいました。商売は女将であるお母さんに一切を任せ、お父さんが生駒さんと2人の息子さんを、冬はス



今年、第67回都民体育大会のスキー男子5部で優勝

キーに、夏は海やキャンプにと毎年あちこちへ連れて行き、自然との共生を教えてくれたそうです。

なかでもスキーは、単にレジャーとして楽しむのではなく、初めから競技スキーのテクニックを叩き込まれました。小学生の時から全国の競技大会へ出場するため、スキー場を転々とする生活。時には学校へ行く時間がなく、欠席も続きました。それでも「国語・算数・理科・社会を教わるだけが勉強じゃない」というのがお父さんの教育方針であり、その成果として小学生ではトップのレベルに。ほとんどの大会を制覇して各競技大会で有名になり、「生駒3兄弟が出るぞ」と恐れられたそうです。「ホテルに泊まるとスキー用具がいたずらされるんですよ。ねたみなんじゃないかね、だから朝早くみんなが起きる前に、保管室へスキー用具が無事か見に行きました」。

社会人になりサラリーマン生活の中では、スキーができる時間が限られてしまいましたが、港区のスキー大会に毎年入賞し、港区の代表として都民大会へと進み、大活躍をされていました。

退職した現在は、各競技大会に出場することはもちろん、港区スキー連盟会長として登録スキークラブ8団体を束ね、毎年港区のスキー教室を主宰されています。

「スキー人口が減ってきているので、現状維持からどうやって発展させるか、何をすればいいかを常に考えています」と、後輩の指導とスキー振興に日々尽力されています。そして何より、ご自身も現役スキーヤーとして人生を楽しんでいらっやいます。

【文 ■ 千葉みな子 写真 ■ 米原剛】

旧町名 由来板を ご存じ ですか？



今回紹介した旧町名由来板が設置されている区立芝公園
芝公園4-8-4

大正10年(1921)発行の「東京市芝区図」(東京通信局発行)を参照すると、芝地区には、当時74の町名がありました。その後、住居表示実施などによる町名変更があり、現在使われている町名になりました。74の旧町名のうち、現在71の町名の由来を記した旧町名由来板を芝地区内19か所に設置しています。

今回は「区立芝公園」(芝地区MAP12)に設置されている旧町名由来板から、3つの旧町名を紹介します。

栄町

正徳3年(1713)に徳川幕府が御霊屋御掃除人に与えた土地で、芝御霊屋御掃除屋敷と呼ばれていました。明治2年(1869)、芝御霊屋御掃除屋敷と金地院拝領町屋敷を合併して芝栄町となりました。明治5年(1872)、さらに近傍の旧鯖江藩邸、武家地、寺社地などを合併しました。栄町とした理由は不明ですが、町の繁栄を願ってつけたのではないかと考えられています。

芝公園

慶長3年(1598)、徳川家康によって現在の場所に移された三縁山増上寺の境内で、上野の寛永寺と並び称される江戸名所の一つでした。一時、三縁山の名を取って三縁町と称されていましたが、明治6年(1873)、宮内省の管轄地となって公園地に編入され、芝公園と定められました。有史以前より人が住む土地であったと考えられ、貝塚や古墳などが残っています。

新堀河岸

古川南岸の赤羽橋から将監橋の間にあたる河岸地域で、江戸時代はとくに町名はなく、荷揚げ場などに使われていました。薩摩鹿児島藩の荷揚げ場があったことから、俗に薩摩河岸とも呼ばれていました。いつごろから新堀河岸と呼ばれたのかは不明ですが、おそらく明治時代になってからの里俗名と思われます。舟運の便があるため、木材、石材、竹材、米塩、薪炭などの商店が多くあったようです。

芝地区掲示板

お知らせ

港区自転車シェアリングが始まりました

10月1日から「港区自転車シェアリング」が、環状2号線周辺エリア、港南エリア、六本木エリアで始まりました。放置自転車の減少や、地域の回遊性・利便性向上が期待されます。環状2号線周辺エリアのポート設置場所については、下図の通りです。



料金体系(税別)

1回会員	はじめの30分は100円 以降30分ごとに100円
月額会員	月1,000円 はじめの30分は無料、以降30分ごとに100円



問合せ先 港区自転車シェアリング運営事務局 TEL 0120-10-3196
ホームページ <http://docomo-cycle.jp/minato/>

お知らせ

都税の年末年始における 窓口業務のご案内

都税事務所、都税支所・支庁、都税総合事務センター、自動車税事務所での都税の申告・納税・証明等の事務の取り扱い、年末は12月26日(金)まで、年始は1月5日(月)からとなります。

12月27日(土)から1月4日(日)までの間に申告書・申請書を提出する場合は、都税事務所、都税支所などに設置している「申告書等受箱」をご利用ください。

問合せ先 港都税事務所 TEL 03-5549-3800(代表)

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子／齋藤恵里花／
作田宗子／柴崎郁子／柴崎賢一／高井志保／
千葉みな子／早川由紀／日沖剛／町田明夫／
森明／森田友子／湯原信一／米原剛
(五十音順 敬称略)
●今後の発行スケジュールは次の通りです。
H27.3.1発行(第34号)、H27.6.1発行(第35号)、
H27.9.1発行(第36号)、H27.12.1発行(第37号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設等で配布しています。

芝地区地域情報誌編集委員を募集しています！

芝地区の話題を発掘、取材し、執筆していただく地域情報誌編集委員(記者)を募集します。

- 対象 芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人
- 内容 地域の話の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年4回発行予定)。発行予定ごとに平日の昼夜間に2時間程度の取材と、平日夜間に2回程度編集会議への参加があります。
- 申込み 氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、ファックスまたは郵送でお申込みください。
- その他 報酬、交通費等の支給はありません。



港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL03-3578-3193 FAX03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>